

日本原子力学会核燃料部会

平成15年第5回運営委員会議事録

日時 : 平成15年12月18日(木) 10:30~12:30

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、森副会長、安部田委員、伊東委員、緒方委員、木下委員、北村委員(久保田委員後任)、河野委員、坂井委員、須田委員、林委員、更田委員、米田委員、和田委員

議事

1. フェロー制度について

山脇部会長から、フェロー制度について日本原子力学会総務財務委員会へ次のように回答した旨の報告があった。「本制度の設立の趣旨には基本的に賛成いたします。ただし、学会の年会費や大会への参加登録料を免除してさしあげることなどの年配者への経済的負担については配慮の必要があると考えますので、ご検討願います。」

2. 前回議事録及び総会議事録について

前回議事録(資料1-1)は既に承認済み。総会議事録(資料1-2)について須田委員より報告され、承認された。(一部誤記訂正有り)

3. 平成16年夏期セミナー企画立案状況について

伊東委員から平成16年夏期セミナー企画立案状況について資料2にて報告された。前回運営委員会報告内容との変更点について、開催場所がホテル天翔(洞爺湖温泉)からホテルサンパレス(洞爺湖温泉)に変更することが報告された。変更理由は、10月14日に会場を確認したところ、会場の高さが十分ではなく、100名規模の会場では後部からスクリーンが見にくいことが判ったためである。ホテルサンパレスは会場として納得できるものであり、会場費も約140,000円(2日分)と妥当であること、宿泊費は北大割引が適用される利点もあり、参加費は例年並の範囲になる見込みである。ホテルサンパレスは大型リゾートホテルであり、眺望もすばらしく周辺の環境は恵まれており、夏期セミナーの開催場所としては適している旨の報告があった。また、開催場所へのアクセスについては、千歳空港駅から南千歳駅乗換えで洞爺駅まで特急で約二時間(三十分毎に運行)であり、首都圏から約半日を擁する旨の説明があった。また、見学会については北海道電力殿へ泊発電所の見学を申し入れており、期日近くなってから再度確認になるが、バスの手配も含めて北海道電力殿で見ていただけそうな感触である。プログラムについては、7月14日に受付、15日、16日に講演、17日に見学会を予定している。今後の準備予定は、3月までに講演プログラム作成、後援者への依頼、4月に開催案内送信を予定している。具体的な講演プログラム(案)について下記の提案があった。

講演プログラム(案)

- ・ 外国人講師の招聘
- ・ 学会賞受賞記念講演(1、2件)
- ・ 軽水炉炉心燃料技術開発ニーズと今後の展望 BWR(東電)/PWR(関電)
- ・ 軽水炉燃料の確証試験/実証・試験照射後試験、JNESの今後の取り組み (JNES)
- ・ 泊3号機の建設計画 (北海道電力)
- ・ 軽水炉炉心燃料技術の開発 PWR(MHI)/BWR(GNF)
- ・ 燃料・材料の基礎特性研究の現状、今後の課題 (GNF?)
- ・ パネルディスカッション(大学での原子力教育)
- ・ 地元の話(?)

プログラム案に対する意見は下記の通り。

- ・ 外国人講師については、日韓、日中韓の交流を進めたい動き、勿論欧米、日本に滞在されている方も含めて幅広く検討する。
- ・ 大学でも新しい動きが出ており大学での原子力教育を取り上げるのは賛成である。
- ・ 基礎研究については大学も含めてほしい。
- ・ 地元の方の講演も是非企画してほしい。先日、関東甲越支部主催で柏崎での講演会があり、自然環境のすばらしさについて講演会があり好評であった。

- ・ JNES殿についてはご了解を得られた。
- ・ JNC殿や原研殿にも講演を頂いてはどうかとの意見もあり、JNC殿には「FBR燃料サイクル評価の中間報告」、原研殿には「窒化物燃料について」講演いただくことになった。さらに、来年度から原子力委員会主催でシンクロソーバー研究がスタートし、外国から燃料の専門家を招く予定(マスケ氏、レスト氏)であり、スケジュールが合えば講演を頂くことも一案ではないかとの意見があった。シンクロソーバー研究概要について、次回木下委員にご紹介いただくことになった。

具体的なプログラムの内容は3月の運営委員会で決定する必要があるので、講演の内容については伊東委員へメールで意見を連絡することになった。

4. 原子力学会春の年会での企画セッションについて

和田委員から原子力学会春の年会での企画セッションについて資料3にて報告された。

- (1) 企画セッションは春の大会時(2004年3月29日 於. 岡山大学)に開催する。
- (2) 日本/韓国/中国で開催すること。
- (3) 核燃料部会、材料部会、核融合工学部会の共催であること。
- (4) 企画セッションの大項目、発表数及びChairpersonについては下記のように決定しているが、詳細については決まっていない。
 - ・ Water-cooled Reactor Fuel Modeling (Chairperson:M.Yamawaki)
Japan/Korea/China 各1名
 - ・ Cladding for Water-cooled reactor (Chairperson:M.Sugisaki)
Japan/Korea/China 各1名
 - ・ Structural Materials for Nuclear Application (Chairperson:M.Seki)
Japan/Korea/China 各1名
- (5) 費用負担は20万円/部会x3部会=60万円とし、不足分は各部会予算から均等に負担する。
- (6) 招聘講演者(韓国、中国)には往復航空券、国内旅費、宿泊費を支給するが、講演謝金は支給しない。

(1)~(6)については合意されている内容である。

- (7) 今後の進め方としては、核燃料部会が担当部会として進める。具体的な推進体制について、韓国は山脇会長、中国は木下委員が窓口となる。他部会(材料部会、核融合工学部会)との調整は森副部会長、学会との調整は和田委員が担当する。
- (8) 企画セッションの概要は11月4日に開催された企画委員会には提出済みであるが、最終案は提出していないので至急提出する必要がある。正式名称は『水炉燃材料挙動に関する日韓中合同セミナー』であるが英文名は決まっていない。

韓国との経過については、山脇会長より『合計3名の講演者(各セッション1名x3セッション)の推薦をYong氏に依頼し、至急回答する旨連絡を得ている。』との報告があった。

中国との経過については、木下委員より『電中研に派遣されているWan氏を通じてCNNCに依頼している。CNNCからは各研究所に問い合わせが出ている。ステップに時間がかかる様子である。ひとつの方法として、各研究所に知人がいればプッシュした方が望ましい。推薦していただける方をご存知の方は連絡いただきたい。また、2005年の軽水炉燃料専門家会議の協力をお願いしたい主旨で、中国原子力学会の会長とContactしたいと申し入れている。』との報告があった。

日本側の講演者については、2005年の軽水炉燃料専門家会議の中心テーマとなりうるようなこと、個別の話ではなく日本全体を見渡した総合的なテーマの方が望ましい。これらの点を考慮して、核燃料部会としてはWater-cooled Reactor Fuel Modelingのセッションの講演者を森副部会長へ推薦することとなった。

5. 軽水炉燃料専門家会議2005年開催について

- (1) 2004 International Meeting on LWR Fuel Performanceへの協力について
木下委員より、Mrs.Rosa Yang (EPRI)から資料4-1の添付資料にある2004 International Meeting on LWR Fuel Performance (Orland, Florida Sept.19-22,2004)への日本の協力要請があり、電力殿の協力を頂きKeynoteでの発表が提案された。日本としてはこれを足掛かりにして2005年の会議につなげたい。
更田委員より、Florida会議のプログラム委員会の内容が紹介された。
 - ・ 会議の開催地とテーマについて、3地域(米国、欧州、日本)でそれぞれテーマを持つと地域とテーマが固定してしまうので、例えば2テーマで3地域開催すれば、テーマがローテーションして望ましい。
 - ・ 各会議の連携を強める。例えば各会議のHPでは、他の会議についても言及する。
 - ・ 各会議の特徴づけについては今後も協議していく。京都会議は基礎に重点をおくことは好評であった。

Florida会議へ日本としては協力する。東電殿からは、『2004年会議については、BWR各社及

び関係各社への協力要請し、数件あります。』との説明があった。Keynoteについては、東電殿は対応可能であるが、電力間の調整をしていないので関電殿と相談する。スケジュールの関係もあり来年Mrs. Rosa Yangが来日した際に相談することとなった。テーマのローテーションについては、日本側も賛成する。

(2) 水炉燃料挙動専門家会議について

資料4-1、4-2にて報告された。プログラム委員会の素案が報告された。プログラム委員会の基本的な役割は発表と議論の項目を決定し、参加論文を取りまとめることあります。その他組織委員会があり、会場設定も含めて財政的なものを担当する。プログラム委員会の具体的な内容として、

- ・ 会議プログラム内容の決定
- ・ 発表分野、発表方法(口頭、ポスター)の決定
- ・ 参加論文の審査、選別
- ・ 発表論文集の出版(電子媒体)
- ・ 座長の選定、招聘
- ・ 参加の呼びかけ、開催案内の作成(Call for paperを含むWEB内容)
- ・ 行事項目の提案(テクニカルツアー、技術紹介ブース等の検討)

委員会活動における留意点としては

- ・ ANS, ENS, AESJ共催によるためその連携に留意する。
- ・ 毎年開催されるため、本会議の特徴を出すことに留意する。
- ・ アジア圏での初回の大規模な水炉燃料国際会議を目指しており、中国、韓国、台湾などアジア圏からの積極的な参加を呼びかける。

また本国際会議は原子力学会が主催であり、その下でプログラム委員会と組織委員会が機能する形で進めることとなります。

タイトルについては、特徴付けのために副題(Fundamentals and New Frontier)を付けた。Fundamentalとは材料やシミュレーションも含めたことを意図しており、New Frontierは単なる軽水炉(BWR,PWR)のみではなく、水冷却の他のタイプも視野に入れることを意図している。

プログラム委員会の素案については確認了承された。また、プログラム委員については後日協議事項となった。

また、資料4-2にて、水炉燃料挙動専門家会議の経過と今後の予定について報告があった。

6. 部会HPについて

河野委員から資料5にて報告された。

前回(平成15年9月24日)以降の改訂内容は次の通り。

- ・ 運営委員会の名簿の更新
- ・ 運営委員会議事録の更新
- ・ 平成15年度夏期セミナー報告の掲載

今後の予定は次の通り。

- ・ 核燃料部会運営委員会議事録の更新
- ・ 核燃料部会総会議事録の更新
- ・ 核燃料部会報目次の更新
- ・ リンク集
- ・ メーリングリストへの部会委員登録

7. 学会誌への連載講座について

森副部長より資料6にて報告された。9月24日の運営委員会の検討資料を提出したところ、10月3日の原子力学会編集幹事会でその内容が検討され、次のコメントが出た。

- ・ 軽水炉燃料中心か、燃料全般についてかを検討すること。軽水炉中心の場合は、燃料全体の講座について、別途企画を検討してほしい。
- ・ 燃料の役割、炉心との関係、現在の燃料設計に至るまでの経緯などについて触れて欲しい。その場合、核設計がわかる人が必要ではないか。
- ・ 『軽水炉燃料のふるまい』(燃安専)、『軽水炉高燃焼度燃料の照射ふるまい』(学会誌11月号)の焼き直しにならないこと。

上記コメントに対して、提案書を次のように変更し、編集幹事会へ提出した。

- ・ 軽水炉燃料を中心とした講座で準備を進めてきたこともあり、今回は軽水炉燃料に関する講座とする。講座名は『核燃料—軽水炉燃料を中心に』に変更する。
- ・ 『核燃料とは』といった議論にもページを割く。
- ・ 軽水炉以外の原子炉とその燃料の特徴にも簡単に触れる。核設計では山本助教授(名古屋大)に御支援を依頼した。
- ・ 軽水炉燃料についてハードのみでなく設計方法も含めてその変遷を記載する。
- ・ 新しい知見を盛り込んだり、軽水炉という環境からの燃料設計を説明したり、要点をわかりや

すく説明することで『軽水炉燃料のふるまい』(燃安専)とは別の特色を出す。

・変更内容に従って、『連載にあたって』も一部変更する。

上記変更内容を10月31日の編集幹事会で検討した結果、了承された。次の一般的なコメントがあった。

- ・全体的なトーンを合わせるために部会の責任者を任命すること。→森副部会長を責任者として連絡した。
- ・できれば、全ての回の原稿を一度に揃えてから、編集作業に入ることとしたい。

資料6の執筆分担で進めることが確認された。尚、前回運営委員会の中では軽水炉以外の燃料についてもあったが、編集幹事会からのコメントがあり今回は割愛した。軽水炉以外の燃料については燃料全体に関する講座の企画もあり、そちらに委ねることとしたい。

8. 韓国との国際交流について

山脇部会長より資料7にて韓国原子力学会主催『日韓セミナー』について報告された。『原子炉燃料・材料挙動に関する日韓セミナー』が2003年10月29日に韓国北東部のYongpyeongにて開催された。日本側招聘者は、核燃料部会、材料部会及び核融合工学部会からそれぞれ山脇部会長(東海大)、杉山氏(原研)、木村氏(京大)が推薦され出席した。日韓セミナー出席前に韓国原子力研究所(KAERI Daejeon)を訪問し、情報交換と研究発表を行った。

日韓セミナーの講演に先立ち、韓国原子力学会会長のUn Chul Lee氏(ソウル大)から開会の挨拶があった。セミナー終了後にMOU提携のための調印式があり、韓国原子力学会の核燃料・材料部会長であるMyung Seung Yang(KAERI)と日本原子力学会の核燃料部会長である山脇先生がMOUに署名した。材料部会長と核融合工学部会長の署名は帰国後に依頼し、MOUは4部作成し、それぞれの部会が一部ずつ所持することとした。MOUの原本は運営委員に回覧され確認された。

9. 運営委員交代について

須田委員から下記の運営委員交代の紹介があり、承認された。
(東京電力) 久保田委員→北村委員

10. 核燃料部会の平成15年度予算・実績について

須田委員から資料9にて報告された。収入の部では予算347,000円に対し、実績で593,629円の見込みであり、H15年夏期セミナーの残金316,629円が寄与している。支出の部では予算552,000円に対し、実績で345,740円の見込みである。大幅減の理由は部会報の発行2回/年から1回/年に変更したことによる。また、前回の運営委員会からの変更点として、2003年秋の大会での講師謝金と旅費(謝金10,000円+旅費14,740円=計24,740円)を計上している旨の報告があった。

11. その他

須田委員から資料10-1にて核燃料部会報巻頭言(九大 杉崎名誉教授)の紹介があった。また、資料10-2、10-3にて新しい運営委員名簿の紹介と確認があった。

その他、日中韓合同セミナーの原稿提出期日を明確にして欲しい旨の要望があり、1月13日を目標とすることが確認され、具体的な進め方はプログラム委員会で決定することとする。

また、部会報について原稿が遅れており、12月発行予定が平成16年1月末発行になる見込みであることが坂井委員から報告された。部会報発行については、2回/年を1回/年発行とし、重要な案件については随時ホームページを更新することによってカバーすることが再度確認された。

12. 今後の予定

- ・平成15年度第6回運営委員会と会員総会
- ・平成16年度第1回運営委員会

予算および新しい運営委員の関係もあり、平成16年度の第1回運営委員会は5月上旬に開催することとする。

以上

過去の運営委員会議事録一覧

[もどる](#)